



今号は病院長に、新年度に病院が推進していく事業について寄稿いただきました

新年度に病院が推進していく事業について

令和6年度を迎えました。日頃、徳島大学病院の使命である「先端的で、かつ生きる力をはぐくむ医療を実践し、人間愛に溢れる医療人育成と地域への医療貢献」においてご尽力いただき厚くお礼を申し上げます。さて、本年度、皆様とともに取り組む当院の事業のいくつかを紹介します。

1.医師の働き方改革：4月より医師の時間外・休日労働時間の上限規制の施行が始まります。すでに本院は連携B水準の特定労務管理対象機関（地域医療確保のためにやむなく長時間労働が必要となる医師が存在する施設）としての指定を県より受けました。健康を守るためにこれまで準備してきた管理体制を実行し、さらに病院の診療プロセスの効率化（医療DX、ICT化）や労働時間を短縮するだけではなく、働きがいがあり、働きやすい環境整備を進めます。当院を受診される皆様にもこの制度の趣旨をしっかりとお伝えしご理解を得られるように努めます。

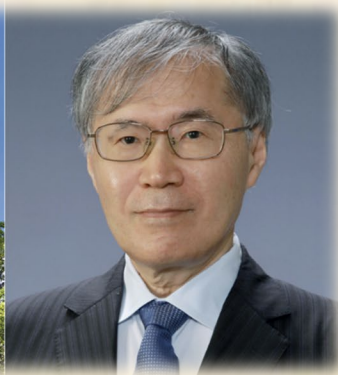
2.医療人確保と人材育成：本院の高度医療を実践するには、高度医療人材が必要不可欠です。コロナ禍が去った途端に人材の流動化が激しくなりました。当院は国が定める施設基準の下で運営されており、職員定数が担える医療の規模を左右します。若手医療人（医師、看護師、看護補助者、技術系職員、医師事務作業補助者など）の育成に取り組んできた部署を強化し、魅力的な医療教育を実践すると共にキャリア形成プランをバージョンアップし若手医療人の確保に尽力します。

3.病院広報の強化：3月末に、当院の開院80周年を節目とした記念誌、「徳島大学病院-世界に誇れる最新医療」を出版しました。本稿では当院医療の強みの一つである最先端機器と医療技術（拡張実現）の組み合わせによる数々の低侵襲医療を取り上げています。また、患者・家族や県民の皆様を対象とした新しい広報誌「徳大病院ニュース SiDE YOU」も刊行しました。ご笑覧いただければ幸いです。当院と当院のステークホルダーとの連携は今後益々重要になります。今後はSNSなど影響力のあるメディア利用も考慮し当院のブランド力を高める方策を練っていきます。

その他に、医療連携を通じた新興感染症対策の強化（感染制御部）や安全管理部内にクオリティインディケーター（QI）室を設置して医療の質を測り公表することで持続的に医療の質・安全の向上を図ります。

当院は社会とその未来を見渡す広い視野を持ち、県民のみならず全国民のウェルビーイング（幸せ感）向上に資する高度医療を創造し、他の大学病院とは違う強みのある特定機能病院として医療、医学、医療教育の発展と地域貢献に励んでまいります。職員の皆様には引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

徳島大学病院長 香美 祥二





病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

内視鏡センターの活動について

最近の内視鏡診断機器や技術の進歩は著しく、内視鏡センターにおいては最新の内視鏡機器を揃えて最先端の医療を行っています。画像強調内視鏡システム(NBI, BLI, LCI)と拡大内視鏡、胆膵用の超音波内視鏡、胆道鏡スパイグラスを揃えてがんの正確な診断を行っています。

消化管内視鏡では、上部消化管内視鏡検査と下部消化管内視鏡検査を多数行い、とくに食道癌、胃癌、大腸癌の内視鏡治療を積極的に行っています。とくに、早期胃癌症例が多数紹介され、主に内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が行われています。ESDは内視鏡の先からさまざまな形の電気メスを出して、病変周囲を切開し、粘膜下層を剥いでいくことで大きな病変でも一括切除をすることが可能です。ESDは難易度の高い手技であり熟練した内視鏡専門医が行う必要があるため当院のような高次医療機関で施行されています。

また、小腸カプセル内視鏡やダブルバルーン小腸内視鏡検査も多数実施しており、小腸腫瘍の内視鏡的切除も行っています。

一方、近年は胆膵内視鏡検査が非常に進んでいます。膵癌の診断に最も優れている超音波内視鏡検査が数多く行なわれています。超音波内視鏡検査は、上部消化管内視鏡の先端に超音波装置が付いており、胃や十二指腸の壁を通して膵臓を超音波で調べる検査です。CTやMRIに比べて膵癌の検出感度が高いことが知られており、大きさ1cmの膵癌を見つけることができます。さらに、この方法で膵臓に腫瘍を発見したときには、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)により病理診断を行うことができます。そのため、現在では大部分の膵癌の病理診断は、EUS-FNAにより行われており、その検体を用いてがん遺伝子パネル検査に出すこともできます。同様に、胆道腫瘍に対してはスパイグラスと呼ばれる胆道鏡を行っており、内視鏡下生検により胆道癌の確定診断(病理診断)を行っています。進行癌の場合には、これらの検体を用いて遺伝子パネル検査に出すことにより治療方針を決定します。



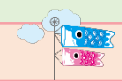
内視鏡センター センター長
高山 哲治

写真 内視鏡センタースタッフ一同

NEWS・イベント大募集!

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。





呼吸器外科 特任助教 森下 敦司

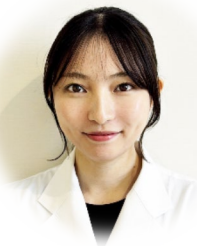


令和5年4月より胸部・内分泌・腫瘍外科特任助教に赴任致しました森下敦司と申します。関連病院で9年の研鑽を積み、久しぶりに大学病院に戻って参りました。取り巻く環境もずいぶん変わっており、赴任当初はバタバタする毎日でしたが、ようやく落ち着いて診療業務に携

わることができるようになりました。
趣味は釣りで、休日は仕事か家族と過ごすことがほとんどですが、時間を見つけてはイカ釣りや青物釣り、秋はタチウオ釣りなどを楽しんでいます。

現在は呼吸器外科で主に肺癌手術を行っています。これまでは3ポートでのオースドックスな多孔式手術や単孔式手術(Uniportal VATS)を手掛けてきましたが、ロボット手術の経験がないため、新たにチャレンジできればと思っております。色々と迷惑をおかけすることがあるとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

むし歯科 修練歯科医 岡本 梨沙



令和5年4月よりむし歯科に入局いたしました、岡本梨沙と申します。昨年度、徳島大学病院にて臨床研修を修了し、今年度修練歯科医として入局いたしました。むし歯科ではむし歯などによって失われた歯を、それ以上大きく削らないで温存する低侵襲の接着修復治療と、重度のむし歯などにより引き起こされる歯髄炎や根尖性歯周炎に対する、いわゆる歯の神経の治療を行っています。その他にもホワイトニングなど審美歯科治療など多岐に渡って取り組んでおり、日々多くのことを学ばせていただいております。まだまだ未熟ではありますが、歯科医師として少しでも成長できるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

歯科衛生室 歯科衛生士 久保 枝莉



令和5年4月に入職いたしました、久保枝莉と申します。昨年度まで徳島大学大学院にて疫学研究を行っており、博士前期課程を修了いたしました。

歯科衛生室では、歯周病の高齢患者さんのメンテナンスや周術期患者さんの術前術後の口腔管理を行っております。ブラッシング技術向上のため患者さん一人ひとりに合った歯科保健指導を行うことで歯周病の進行抑制をサポートし、周術期に発症する肺炎等の合併症の発症リスク低下に加え、術後の早期回復に寄与しながら患者さんの健康維持に携わっております。

休日は、趣味のテニスで体を動かしたり家でゆっくり休んで調子を整えたりとメリハリをつけながらリフレッシュしております。

まだまだ未熟ではありますが、患者さんにしっかり向き合っていけるような歯科衛生士を目指して精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

腎臓内科 医員 多田 美穂



令和5年度に腎臓内科に入局いたしました、多田美穂と申します。腎臓内科は尿検査の異常、腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、透析などを扱っております。徳島ではやや珍しい印象ですが、全国的には人口の多い内科領域だそうです。私は現在入院患者さんを主に担

当しており、令和6年度からは週1回透析室の当番にもあたらせていただく予定です。また嬉しいことにこの4月より後輩2人と共に働けることになりました。先輩として一助になれるよう自分なりに励みつつ、周囲の方々に助けていただきながら日々業務にあたっております。

趣味は弓道で、中高大と部活動に所属していました。入職後は吉野川医療センターで初期研修をしたご縁から、高越山にある高越(こうつ)弓道場へ通っています。細々とでも今後も続けていければと思っています。

以上、今後お世話になる機会がございましたらどうぞよろしくお願いいたします。

東病棟7階 看護師 貴田 夏生



令和5年4月に入職し、東病棟7階、消化器移植外科病棟に配属となりました貴田夏生と申します。当病棟では、胃や腸、肝臓、膵臓などの消化器疾患に対して、主に手術やがん化学療法を行っています。手術を受ける患者さんに対しては、患者さんの術前から退院後の生活までを見越した看護を提供しています。術後の痛みやボディイメージの変化などに対する患者さんからの声をよく聴いて、その人に合った関わりを大切にし、患者さん自身が自立して生活することができるよう支援しています。

休日には沖縄にダイビングに行ったり、スノーボードや温泉旅行に行ったりして、自然を感じリフレッシュしています。

まだまだ覚えることも多く、未熟ではありますが、ひとつひとつ吸収し、患者さんや病院スタッフから信頼される看護師になれるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

検査部 臨床検査技師 大和田 陽菜



令和5年4月に医療技術部臨床検査部門に入職いたしました、大和田陽菜と申します。産婦人科の胚培養士として日々業務に励んでおります。

胚培養士の主な仕事は、患者さんから卵と精子をお預かりし、受精卵となるよう育て、最終的に患者さんへと移植を行うことです。不妊治療は身体的な負担だけでなく精神的な負担も大きく、一つ一つの手順が患者さんの未来を左右する繊細な仕事ではありますが、新しい命を育むことへの喜びを感じております。

患者さんのお役に立てるよう日々の仕事に責任をもって丁寧に取り組む、胚培養士として少しでも成長できるよう誠心誠意努めてまいります。まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

